

第 142 回日商簿記 3 級 第 1 問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

| | | | |
|-------------|-----------------|---------------|---------------|
| 現 金 | 当 座 預 金 | 有 価 証 券 | 貸 付 金 |
| 手 形 貸 付 金 | 従 業 員 立 替 金 | 未 収 入 金 | 備 品 |
| 備品減価償却累計額 | 借 入 金 | 手 形 借 入 金 | 未 払 金 |
| 所 得 税 預 り 金 | 社 会 保 険 料 預 り 金 | 受 取 利 息 | 有 価 証 券 売 却 益 |
| 雑 益 | 固 定 資 産 売 却 益 | 給 料 | 減 価 償 却 費 |
| 支 払 利 息 | 有 価 証 券 売 却 損 | 固 定 資 産 売 却 損 | 雑 損 |
| 現 金 過 不 足 | | | |

- 平成 25 年 3 月 16 日に購入した備品（取得原価：¥ 600,000、残存価額：ゼロ、耐用年数：5 年、償却方法：定額法、記帳方法：間接法）が不要になったので、平成 27 年 3 月 15 日に ¥ 400,000 で売却し、代金は当月末に受け取ることとした。なお、決算日は 3 月 31 日とし、減価償却費は月割りで計算する。
- 従業員への給料の支払いにあたり、給料総額 ¥ 500,000 のうち、所得税の源泉徴収分 ¥ 20,000 と、従業員が負担すべき社会保険料 ¥ 30,000 を差し引き、残額を当座預金口座より従業員の普通口座に振り込んだ。
- 得意先南山商店に期間 10 か月、年利率 3% で ¥ 1,000,000 を借用証書にて貸し付けていたが、本日、満期日を迎えたため利息とともに同店振出しの小切手で返済を受けた。
- 当期首に購入した中京ベースボール株式会社の普通株式 500 株（取得原価：¥ 505,000）を、1 株あたり ¥ 1,000 ですべて売却した。なお、売買手数料 ¥ 3,000 を差し引いた手取額は、4 営業日後に当座預金口座に振り込まれる予定である。
- 月末に金庫を実査したところ、紙幣・硬貨 ¥ 123,400、得意先振出しの小切手 ¥ 20,000、約束手形 ¥ 25,000、郵便切手 ¥ 3,000、収入印紙 ¥ 4,000、配当金領収証 ¥ 5,000 が保管されていたが、現金出納帳の残高は ¥ 145,000 であった。不一致の原因を調べたが原因は判明しなかったため、現金過不足勘定で処理することにした。